

ドクガ・チャドクガ（ドクガ科）



▲ドクガ（実物大）



▲チャドクガ（体長約 25 mm）

立田山周辺にも、毒針毛を持つドクガ類、カレハガ類、ヒトリガ類、イラガ類などがすんでいます。

自然が豊かで野鳥も多くて、市街地の公園等のように大発生することは少ないものの、刺されると皮膚炎などをおこします。野外活動の際は十分注意しましょう。

特徴 日本にドクガ類は 52 種生息しているといわれますが、特に注意したいのはドクガ（終令幼虫の体長約 40 mm）とチャドクガ（終令幼虫の体長約 25 mm）。幼虫の体の表面に毒のある毛（毒針毛という。長さ 0.1 mm で 50～600 万本あるといわれる）があり、幼虫が脱いだ皮（脱皮殻）にも毒があって厄介です。また、夜の照明に集まる成虫（体長 10～15 mm）の体にも毒針毛（鱗粉は無毒）が付着しています。被害はこれらの幼虫や脱皮殻、成虫に触れたときに発生します。

すみか 【ドクガ】はクヌギ、コナラ、カキ、ウメ、サクラなど多くの広葉樹の葉を食べ、これらの樹木がすみかです。発生は年 1 回。幼虫のまま越冬し 4～6 月頃に現われ、6～7 月頃に成虫となります。この成虫が生んだ卵は幼虫になり集団生活し、11 月頃までに落ち葉の下などで越冬します。【チャドクガ】はチャ、ツバキ、サザンカなどツバキ科の葉を食べ、これらの樹木がすみかです。発生は年 2 回。卵で越冬し、4～6 月頃に幼虫となり集団で葉を食べます。6～7 月頃に成虫となり卵を生み、7～9 月頃に 2 回目の幼虫が発生。この幼虫が成虫となって生んだ卵が越冬します。

症状 ドクガやチャドクガの幼虫の毒針毛が刺されると、皮膚炎をおこして（ジンマシンのような湿疹ができる）激しい痒みが生じ、ときには 2～3 週間続くことがあります。成虫の場合は、炎症の範囲がより広くなります。

治療 ドクガ類の毒にはプロテアーゼ、エステラーゼ、ヒスタミンなどが含まれています。ドクガ幼虫に刺されたら、刺された部位（毒針毛）にセロテープなどをあてて取り除き、水道水などの流水でしっかり洗います。決してこすったり搔いたりしてはいけません（皮膚に毒毛針を刷り込むことになります）。炎症が起これば、抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏（医薬品例：ムヒアルファ EX、オイラックス H 軟膏、セロナ、レスタミン軟膏など）を塗ります。症状がひどいときや毒針毛が目に入ったときなどは医師の治療を受けましょう。

予防策 ケムシ(毛虫)は全て有毒・有害ではありません（無毒・無害のケムシも多い）が、見つけても決して触れないこと。また、ドクガ類の幼虫の発生時期に野外に出るときは長袖、長ズボンを着用し、できるだけ露出部分を少なくしましょう。

ドクガ類の駆除は、幼虫が小さいうち（集団生活しているうち）に焼くなどして取り除きます。市販の殺虫剤（ケムシ用）でも十分駆除できますが、死骸にも毒毛針が残っているので注意が必要です。（焼却処理が一番確実な方法です）

お願い 雑草の森の敷地内で「ドクガの幼虫集団」などを発見したら教えてください。

- ・雑草の森では、定期的な樹木消毒等を実施しておりません。
- ・ドクガ幼虫を発見したら決して触れないで事務室にご一報ください。センター職員が対処します。
- ・事務室にも抗ヒスタミン軟膏を常備しています。ドクガ幼虫に刺されたら事務室までおいでください。